

About 「きらきら」ってどんな内容？

「きらきら」では、市が目指す子どもの姿を、子どもたちの主体的な言葉で表現した10か条「きらきら10」として掲げています。そして、大人たちが共通の認識を持って共に子育てを進めていけるよう、発達段階に応じて子どもに身に付けさせたい姿勢や能力と、備えさせたい力を明示しています。

市内や家庭における一斉活動として、毎年5月と10月のゼロの日に実施する「市内一斉あいさつ運動」と、きらきら10を参考に自分で目標を決め、自分や家族のために取り組む「きらきらチャレンジ」に力を入れています。



Vision 市が目指す子どもの姿



心身ともに健康で
知恵と愛を持つ子ども



Slogan きらきら輝く子どもの10か条「きらきら10」

- 1 命を大切にします
- 2 思いやりのある行動をとります
- 3 お互いの良さを認め合います
- 4 夢や希望をもちます
- 5 自ら学びます
- 6 健康づくりに努めます
- 7 より良い生活習慣を身に付けます
- 8 ルールを守ります
- 9 マナーを身に付けます
- 10 あいさつで心豊かに過ごします



Change 「きらきら」のここが変わった

- 1 子どもたちの取組内容は、自分事として考えることができるよう、主体的な表現に。
- 2 きらきらチャレンジは、子どもたちの主体性を尊重し、きらきら10の内容を参考にして子どもたちが自ら設定し、実施期間もそれぞれ子ども自身で決めるように。
- 3 「いつもあいさつ きらきら輝く大府の子」を合言葉に、あいさつは全ての子どもたちの共通の実践項目に。



きらきら 輝く大府の子どもたち

幼保児小中連携教育の取り組み

学校教育課 電話(46)3332

子どもたちの健やかな成長には、子育てに関わる地域の大人たちの連携と、子どもの発達段階を踏まえた教育や働き掛けが欠かせません。市では、きらきらと輝く大府の子どもたちを家庭や地域と一緒に育てていくため、平成24年度に幼保児小中連携教育の指針「きらきら」を策定しました。それから10年が経過し、時代の変化を受け止め、今後の10年間に対応できるよう令和4年3月に「きらきら」を改定しました。

今回の特集では、「きらきら」を踏まえて、市が目指す子どもの姿の実現に向けた取り組みを紹介します。





大府南中学校 1年生
新家 歓大さん

自分の成長を感じられました

朝、先生や地域の人たちに、自分から大きな声であいさつをすることを目標にしました。小学生の頃、自分以外の人があいさつしていないと、自分もなかなかあいさつすることができませんでした。中学生になって、あいさつの大切さを改めて感じ、自分以外の人があいさつしていなくても、自分はしっかりあいさつしようと思い、きらチャレを設定しました。自分のあいさつを見て、他のみんなもあいさつしやすい環境になればと思います。



大府中学校 3年生
平田 有麗さん

家族の新たな発見ができました

中学生になってから部活や勉強で忙しく、家族と一緒に過ごす時間が減っているなど感じていたので、家族とのだんらんを増やすことを目標にしました。そのため、休日に市の公共施設に行って、家族と一緒に運動しています。とても楽しいですし、私の両親って意外に運動できるんだと、家族の知らなかった一面を発見できています(笑) 受験で忙しくなるとは思いますが、これからも引き続き、家族との時間をつくっていきたいです。

みんなが共通認識を持って、子どもを育てることができます

「きらきら」は、保護者・学校・地域の立場から何が重要でどういうことを中心に子どもたちを育てていけばいいのかを示しているので、みんなが共通認識を持って子どもたちを育てていくことができます。新しく大府に来る子育て世代には、このような一貫した教育指針が示されているのは安心できると思うので、対外的に大府の教育を知ってもらえるツールにもなっています。また、民間の保育園にも共通の教育指針を示すことで、公立・私立の差なく、上手に小学校教育につながることも利点です。

みんなが共通認識を持って、子どもと関わるのが大切です。子どもの笑顔をみんなで見届けて、まち全体で子どもたちを育てていきましょう。



至学館大学 健康科学部 こども健康・教育学科 教授 時安 和行さん

きらきら輝く大府の子どもたちを育てるために

「きらきら」の目標は、子どもたちに生きる力を身に付けさせ、身近な人たちと力を合わせながら、夢と希望を持って人生を切り開いていこうとする子どもを育てることだと考えています。そのために、家庭・地域・関係機関が子どもの発達段階を踏まえて、目標とする「心身ともに健康で知恵と愛を持つ子どもの育成」にまちぐるみで取り組んでいく必要があります。市民の皆さんに「きらきら」の取り組みを知っていただき、あいさつなどの身近なところから協力してもらえればと願っています。

学校教育課 指導主事 伊賀 友信



実際に取り組む様子をのぞいてみた

協力してくれたのは、共栄町に住む中澤さん一家。そこには、楽しみながら挑戦する子どもたちと、子どもたちを見守り、自分も成長する親の姿がありました。



中澤 久美子さん

自分も成長するきっかけに

きらチャレを実行するために、早起きして時間を確保するなど、上手に時間を使えるようになっていっていると感じています。目標を自ら設定することで、自分のやりたいと思うことを自主的にやっているの、引き続き、そばで見守って応援したいと思います。

子どもたちの姿に刺激され、私も息子と一緒にスポーツ鬼ごっこに挑戦しています。子どもたちの姿を通して、挑戦することの大切さを改めて実感しました。

challenge

ピアノを上手に弾けるように **がんばる**

北山小学校 1年生
中澤 美緒さん



challenge

サッカーのクラブチームで選手になれるように **自主トレ**をする

北山小学校 3年生
中澤 陸さん



足元でのボールコントロールができるようになった。
目標を達成できるとうれしいから、これからも **挑戦**し続けていきたい。

できることが増えて、ピアノの先生に褒められて **うれしかった**。
ドレミの位置を覚えて、曲を **弾けるようになりたい**。

